

はじめに

未曾有の被害をもたらした平成28年（2016年）4月の熊本地震の発生から間もなく4年が経過します。熊本県では、「すまいの再建」をはじめ、「創造的復興に向けた重点10項目」を中心に、復旧・復興に全力で取り組んでまいりました。たくさんの御支援のおかげで、重点10項目の一つである災害廃棄物の処理が完了するなど、復旧・復興は着実に前進しています。あらためて、温かい御支援に感謝申し上げます。



引き続き、被災された方々の一日も早い生活再建と、残された課題を確実に解決し、創造的復興を熊本の更なる発展につなげてまいります。

さて、今、世界の環境に目を向けたとき、気候変動による干ばつや、異常な降雨に伴う災害等、これまで経験したことがない気象現象が多発しています。こうした中、本県は、令和元年（2019年）12月に将来の目指すべき姿として「2050年までに熊本県内CO2排出実質ゼロ」を宣言しました。「環境立県」を目指す本県だからこそ、国に先駆けて声をあげ、CO2排出ゼロに向けた機運を盛り上げることで、国を後押しする必要があると考えたからです。この高い目標を達成し、持続可能な未来を実現するために、行政、事業者、県民等が一体となり、県民総ぐるみで取り組んでいく必要があります。

私たちが住む熊本県は、豊かな地下水や雄大な阿蘇の草原、美しい天草や有明、八代の海など多様な自然環境に恵まれています。

一方、私たちは、「公害の原点」と言われる水俣病を通して、環境破壊の恐ろしさとその復元の困難さを身にしみて実感しています。水俣病の過ちを二度と繰り返すことなく、かけがえのない自然を県民共有の宝として次の世代へ引き継いでいくことは、今を生きる私たちの重要な責務です。

この白書では、本県の環境の現状、課題及び取組の内容をまとめております。県民の皆様一人ひとりが、この白書を通して、本県の環境の現状や対策について関心と認識を深めていただき、環境立県くまもとの実現に向けた確かな一歩を是非踏み出していただくようお願いいたします。

令和2年(2020年)2月

熊本県知事 蒲島 郁夫